

ID ^{注1)}	211202	公開レベル ^{注1)}		保管形式 ^{注1)}		保管場所 ^{注1)}		前回ID	
-------------------	--------	----------------------	--	---------------------	--	---------------------	--	------	--

報告書名称 /調査名称	保護林（津軽、久慈・閉伊川、置賜森林計画区ほか）のモニタリング調査及び評価等業務						発行年月/報告年月		
							2021年	3月	
							資料形式 ^{注2)}	報告書	
調査機関	東北森林管理局			委託機関	(一財) 自然環境研究センター				
調査開始年	2010年			調査期間	2020年	5月	～	2021年	3月
調査頻度 ^{注2)}	— —			調査時期 ^{注2)}	通年 — —				
モニタリング計画	2017年3月	改訂		区分 ^{注2)}	II A	大区分 ^{注2)}	1	小区分 ^{注2)}	(1)

調査箇所・範囲 ^{注3)}				調査手法			
<input checked="" type="checkbox"/> 核心地域	<input checked="" type="checkbox"/> 緩衝地域	<input checked="" type="checkbox"/> 周辺地域		■保護林名 白神山地森林生態系保護地域			
<input checked="" type="checkbox"/> GPS等の位置データあり				■面積 12,627.09ha（津軽森林管理署）			
 <p>※周辺地域における調査箇所は備考欄に示す。</p>				■設定目的 日本海型の典型的なブナ林を主体とする原生的な天然林を保存することにより、白神山地における森林生態系からなる自然環境の維持、動植物の保護、遺伝資源の保存、森林の管理・学術研究等に資することを目的とする。			
				■調査項目 今後の保護林の保護・管理に資するため、「保護林モニタリング調査マニュアル」（平成29年3月・林野庁）に基づく調査を実施。 1.森林タイプの分布等状況（資料調査） 2.樹木の生育状況（資料調査/森林概況調査/森林詳細調査） 3.下層植生の生育状況（資料調査/森林概況調査/森林詳細調査） 4.野生動物の生息状況（資料調査/動物調査） 5.病虫害等発生状況（資料調査/森林概況調査/森林詳細調査） 6.論文等発表状況（資料調査） 7.事業・取組実績、巡視実施状況等（聞き取り調査）			
				■過去の実施時期・回数 平成22年度（プロット3、5）、平成27年度（プロット3）			

結果概要（スペースに収まるように入力してください）

■前回モニタリングとの結果比較

- 森林タイプの分布等状況
森林タイプの分布状況に変化は確認されなかった。
- 樹木の生育状況
樹木の生育状況に目立った変化は確認されなかった。
- 下層植生の生育状況
下層植生の生育状況に目立った変化は確認されなかった。外来種は確認されなかった。
- 野生動物の生息状況
野生動物の生息が確認された。
- 病虫害等発生状況
一部ナラ枯れが確認されている。また、ニホンジカの侵入が確認されている。
- 論文等発表状況
学術研究等への利用が確認された。
- 事業・取組実績、巡視実施状況等
状況に応じた必要な管理体制が取られている。

林相等に大きな変化はなく、安定して維持されていることが判明した。また、前回調査から大きな変化は認められなかった。なお、保護林区域内及び周辺地域ではニホンジカの侵入が確認されており、引き続き監視体制を強化する必要がある。また、保全利用地区でナラ枯れが一部確認されており、状況について注視する必要がある。

問い合わせ
 林野庁 東北森林管理局 計画保全部計画課
 〒010-8550 秋田県秋田市中通五丁目9番16号
 TEL：018-836-2489 FAX：018-836-2203

《原本（データ）の帰属について》

注1) 「ID」「公開レベル」「保管形式」「保管場所」については記入しないこと。
 注2) ドロップダウンリストから該当する項目を選択すること。
 注3) 該当する項目の口をクリックし、チェックを入れる。

備考

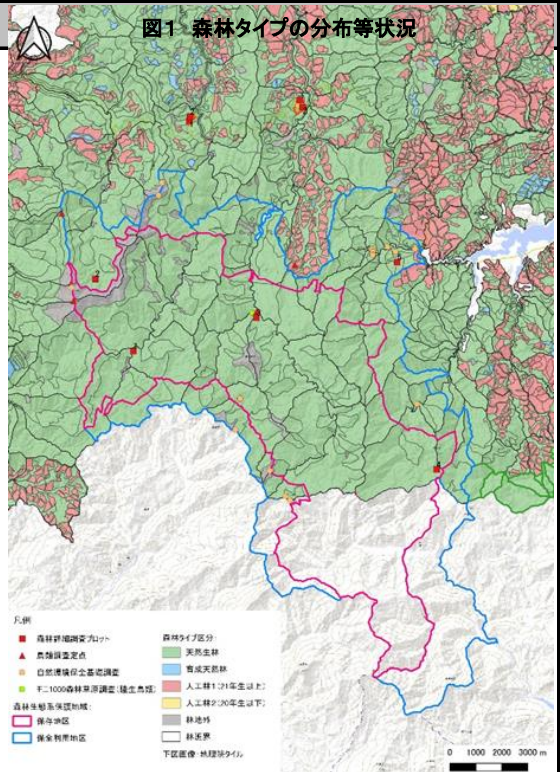
1.森林タイプの分布等状況

本保護林は、青森県南西部と秋田県北西部の県境にまたがる地域に位置する。本調査の対象地域は、そのうちの津軽森林管理署管轄区域である。面積全体の61.1%を占める保存地区においては、天然生林の占める割合が高くなっている(93.7%)。北西に位置する白神岳から向白神岳にかけての部分および保護林中心部の摩須賀岳頂上付近などには林地外が見られる。保全利用地区についても、点在する林地外(3.0%)、わずかに見られる人工林(0.1%)以外は天然生林となっている。周辺部の国有林は、多くが天然生林であるが、一部人工林も見られる。水源かん養保安林に指定されている。

保全利用地区の北東部分は、「白神山地・暗門の滝自然観察教育林」に指定されている。

2.樹木の生育状況、3.下層植生の生育状況

各プロットとも、大径木はブナが優占していた。プロット3では大径木にトチノキやアカイタヤの生育も見られた。プロット5では大径木、中径木でミズキ、小径木でツリバナの生育が見られた。低木層にブナ、アカイタヤ、ホオノキ、オオバクロモジなど、草本層にオオバクロモジ、ツルアジサイ、オオカメノキなどが見られた。各プロットにおいてブナの稚樹が確認され



調査プロット3(標高400m)



調査プロット5(標高421m)

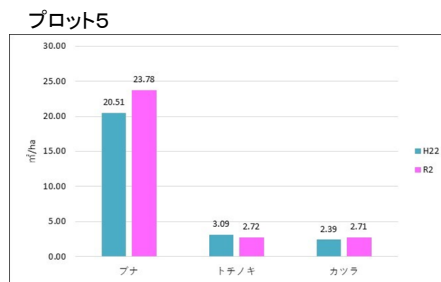
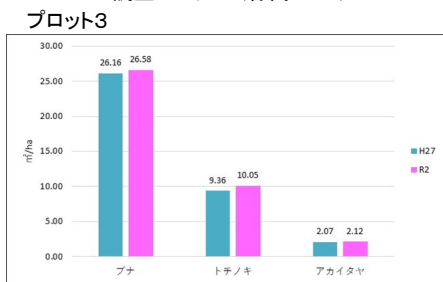


図2 毎木調査 1ha当たりの樹種別胸高断面積合計(優占度上位樹種)

4.野生動物の生息状況

動物調査は、自動撮影カメラによる中・大型哺乳類調査及びスポットセンサス法による鳥類の生息状況調査を実施した。哺乳類では、ツキノワグマ、ニホンザル、ニホンカモシカ等の中・大型哺乳類の生息が確認された。鳥類では、シジュウカラ、ヤマガラ、キビタキといった森林性種のほか、キセキレイやカワガラスといった水辺性種が確認された。

5.病虫害等発生状況

プロットでは病虫害等の被害は確認されなかった。なお、保護林内においてニホンジカの侵入が確認されている。また、プロット内では確認されていないが、保全利用地区で一部ナラ枯れが確認されている。

6.論文等発表状況

前回調査以降、本保護林を対象に含む論文等が確認された。

- ・鳥丸猛・寺倉千晴・赤田辰治(2020)「白神山地ブナ天然林におけるリターフォール量の季節変化」日本生態学会第67回全国大会講演要旨 等

7.事業・取組実績、巡視実施状況等

津軽森林管理署、津軽白神森林生態系保全センター、環境省東北地方環境事務所西目屋自然保護官事務所、青森県による定期巡視、ニホンジカの実態把握調査(自動撮影カメラ設置等)、入林者への普及啓発等が実施されている。